

**第7回 倉敷市歴史文化基本構想等審議会  
議 事 録**

1. 日 時：平成30年3月15日（木）14:00～15:30
2. 場 所：倉敷市役所3階 第2会議室
3. 出席者：
  - ・ 審議会委員

区 分		氏 名	備考
学識経験者	文化財保護審議会	民俗学、城郭史	尾崎 聡 会長
		近代化遺産	小西 伸彦 欠席
		考古学	澤田 秀実
	伝建審	建築学	澁谷 俊彦 欠席
	地域の関連大学		芦田 雅子
関係団体等	文化施設		大原 あかね 欠席
	観光		丹下 恒夫
	メディア		中塚 美佐子
	まちづくり（倉敷）		岡 莊一郎 副会長
	まちづくり（児島）		高田 幸雄
	まちづくり（玉島）		葺石 寛子
	まちづくり（水島）		野村 泰弘 欠席
公募委員		大塚 文子	
		峰山 洋子	

・ 事務局

区 分	所 属	役 職	氏 名	備考
行政	倉敷市教育委員会	教育長	井上 正義	
	倉敷市教育委員会	教育次長	加藤 博敏	
	倉敷市教育委員会生涯学習部	部 長	川原 伸次	
	倉敷市教育委員会生涯学習部	次 長	樋口 尚司 欠席	
	倉敷市教育委員会生涯学習部文化財保護課	課 長	鍵谷 守秀	
	倉敷市教育委員会生涯学習部文化財保護課	課長主幹	岡本 由美子	
	倉敷市教育委員会生涯学習部文化財保護課	主 任	吉原 睦	
	倉敷市教育委員会生涯学習部文化財保護課	主 任	藤原 憲芳	
コンサル タント	株式会社スペースビジョン研究所	取締役所長	宮前 保子	
	株式会社スペースビジョン研究所	取締役	徳勢 貴彦	

- ・ 行政関係部局（なし）
- ・ 報道機関（1社：山陽新聞）
- ・ 傍聴（なし）

#### 4. 資料：

- ・第7回 倉敷市歴史文化基本構想等審議会 次第
- ・倉敷市歴史文化保存活用計画（案）
- ・「みんなのまち くらしき」（平成30年度版）
- ・大きな絵「ふるさと倉敷」

#### 5. 議事：

##### （1）開会・挨拶

##### 事務局

定刻となったので只今から、第7回倉敷市歴史文化基本構想等審議会を開催する。開会にあたって、井上教育長からご挨拶申し上げます。

##### 教育長

第7回倉敷市歴史文化基本構想等審議会の開会にあたり、委員の皆さま方には、大変お忙しい中、お集まりいただき感謝する。

今年度、皆さまにご協力をいただき、策定に向けた取り組みを進めてきた倉敷市歴史文化保存活用計画については、本日の審議会でのご審議の後、3月22日開催の教育委員会での議決を経て、策定という運びにさせていただきたいと考えている。保存活用計画については、平成28年度に策定した倉敷市歴史文化基本構想の目標を実現するために、歴史文化ストーリーのテーマに沿った具体的な施策や方向性をまとめた計画であり、教育委員会としては、この保存活用計画に従い、今後も文化財と周辺環境とが一体となった歴史文化を守り、育み、活かす取り組みを着実に進めていきたいと考えている。

本日は、来年度の小学3・4年生が社会科の授業で使う「みんなのまち くらしき」をお配りしている。例えば、工場の仕事では、児島の学生服工場が掲載されるなど、倉敷市内を題材にした教材である。学校の子ども達には、日本遺産の意味が分かり難いということで、最初の部分で、日本遺産についても解説をしている。また、倉敷市では、繊維の歴史を詳しくまとめた学研まんがを作成中である。完成次第、委員の皆さまにもお送りさせていただく。そのような形で、小学校の中学年頃から、日本遺産に触れてもらい、大人になった時に倉敷の良さをPRできる子どもを育てていきたいと考えている。

もう一つお配りしているのが、山陽新聞に不定期に2校ずつ取り上げてもらいながら作成してきた「大きな絵「ふるさと倉敷」」である。今回は、これにそれぞれの小学校区の中学生在が英文訳をつけて、外国人の方が見ても各小学校区の魅力が分かるものになっている。多くの外国人の方が倉敷市を訪れる中、まずは子ども達に、自分の小学校区にどのような良いもの、歴史的価値があるもの、PRしたいものがあるかを勉強してもらうために、このような取り組みを進めている。

今回の倉敷市歴史文化保存活用計画の策定により、倉敷市歴史文化基本構想等審議会委員としてお願いをしていた役割は、一旦終了となる。委員の皆さまには、倉敷市歴史文化基本構想並びに倉敷市歴史文化保存活用計画の作成について、足掛け3年にわたる長い間、ご協力いただき感謝する。倉敷市も今回の保存活用計画をもとに、益々発展をしていければと思う。今後も、色々なご意見をお伺いすることもあろうかと思うが、よろしくお願ひしたい。

##### 事務局

本日の委員の出席状況について、14名のうち10名の委員に出席をいただいているため、本日の

会議が成立していることをご報告させていただく。

なお、本日は傍聴はおられないが、報道機関が1社来られていることを併せてご報告させていただく。

## (2) 議事

### 事務局

尾崎会長に議事の進行をお願いしたい。

### 会長

お忙しい中、お集まりいただき感謝する。

早速、議事1の倉敷市歴史文化保存活用計画（案）について、事務局から説明をお願いしたい。

### 事務局

（資料説明：倉敷市歴史文化保存活用計画（案） 一略一）

### 会長

事務局から説明があったように、長い時間審議をしてまとめあげてきた計画案である。よくこれだけスリムに凝縮してまとめることができたという印象をもっている。

前回の会議では、重点的な地区を設定する中で、少なくともこれは入れておかなければならないというご意見をいただいたが、事務局で工夫されながら反映いただいた。

本日は、この審議会で、最終的な答申を出すことになる。それを踏まえて、最後に計画案に対してのご意見があればいただきたい。

### 委員

計画案の内容ではなく、計画の実施について教育委員会の考えを伺いたい。

「繊維に育まれたまち」は、日本遺産と重なるということで、日本遺産の取り組みと並行して進めていくことになると思う。しかし、日本遺産の補助金は3年間であり、使い方も日本遺産に関係する事業に限定されている。補助金が切れた後、市では歴史文化基本構想や保存活用計画に基づく取り組みをどのように進めていこうと考えられているのか。

また、先日、文化財保護法の改正案が閣議決定された中で、今後は、保存と活用を両立させていかなければならない。文化財は金のなる木ではないので、活用とのせめぎ合いが今後課題になってくるだろうということが関係者の見方である。そのあたりを教育委員会としてはどのように整理しようと思っているのか。

### 会長

文化財保護法の改正案では、文化財の担当部局を教育委員会ではなく、市長部局に移すことができることになってくる。

### 委員

文化財の保存という立場で、教育委員会が関わり続けていくことになると思うが、破壊行為を含めたモラルや倫理をどのように作り上げていくのか、どのように発信していくかが重要になってくると思う。

### 尾崎会長

澤田委員からの質問について、現在分かる範囲で構わないので回答いただきたい。

### 事務局

1点目の日本遺産の関係については、倉敷市では日本遺産推進室を設置して取り組みを進めてい

るところである。今回の保存活用計画の中の「繊維に育まれたまち」が日本遺産とほぼ重複するが、活用については日本遺産推進室が進めていく事業の中で、3年間進めていく。教育委員会で策定する保存活用計画では、保存に軸足を置いていきたいと考えている。そのあたりは、相互に調整しながら進めていかなければならない。3年間で補助金はなくなるが、補助金がなくなったからといって、事業がストップするわけではなく、倉敷市日本遺産推進協議会で自走していけるようにしたいと考えている。文化庁もそのような指導をされているので、3年間でそのような仕組みを整えていきたい。

今国会で文化財保護法の改正案が閣議決定され、その内容も、尾崎会長が言われたように、文化財担当部局を市長部局に移すことができることとなっている。倉敷市としてどうするかという話はまだされていないが、市長がそのような方向性を出せば、教育委員会から市長部局に移ることになる。しかし、今回策定する保存活用計画は、計画期間を10年間としているように、教育委員会としては、この計画に従って、着実に、粛々と事業を進めていきたいと考えている。

## 委員

粛々と進められるということで、我々もそれを望んでいる。折角策定する計画であるので、しっかりと実行に移していただきたい。

## 会長

文化財保護に関する倫理やモラルは、大きな課題であるので、我々も一緒に考えていかなければならないことだと思う。

## 委員

子どものうちから文化財に慣れ親しんで倫理観を養っていくことが大切であると思う。先日も遺跡を巡る機会があったが、某会社の方が遺跡を傍若無人に歩き回って、壊してしまうのではないかなと思うほどであった。そのような文化財を見る側の見方を小さなうちから育ていく必要があると感じた。今日お配りいただいた「みんなのまち くらしき」のような冊子を活用しながら、実際に現地でどのように守られているかまで見学したりすることを小さなうちから行うような体制に移行していれば、30年くらい先まで安泰だと思う。そのようなことに、学校と連携しながら生涯学習の方々が取り組んでいただければと思う。

## 教育長

歴史的なことについては、小学6年生で学習することになっている。小学校には歴史クラブという部活動があって、自分の学区の中の遺跡を見学に行くなどの取り組みをしているが、中学生になると受験勉強で忙しくなって、興味はあっても継続されていかないという状況がある。そのため、小学校のもう少し早い時期から興味を持ってもらう方が良いのではないかと感じている。倉敷市ではライフパーク倉敷に埋蔵文化財センターがあり、素晴らしい施設であるにも関わらず、市内の学校の子供たちがあまり見学に行っていない。また、昨年、倉敷考古館と倉敷市とが協定を結んで、以前市の教育委員会にいた職員がそこに常駐して分かり易い解説をしている。身近に行ける場所に、そのような施設を増やしていきながら、小学3年生くらいから身近な文化財に触れる機会をつくっていききたいと考えている。倉敷市には自然史博物館があり、昆虫などが充実している。そうすると笠岡市や井原市などからも大人の方が来られており、聞いてみると、小学校の低学年の頃から昆虫が好きで、ずっとここに通っているということであった。その中には、博物館の学芸員になられている方もおられた。将来的には大学の先生や博物館に勤務される方が増えると、さらに広がっていくと思う。そのような点についても、先生方からも色々なアイデアをいただければと思う。

## 会長

私は教育評価も担当しているが、自然史博物館は地道な成果をあげられていると感じている。先日中学生の時に新種を発見されて、その後も活躍されている方がテレビで取り上げられていた。夏の暑い日に網を片手に倉敷川を沢山の小学生が歩いている光景を目にするが、このような中から、将来の理科の先生が出てきたり、そうでなくても愛護の精神を育てていくのではないかとと思う。文化財サイドでもそのような活動ができれば良いと感じている。

## 副会長

倉敷の日本遺産は「一輪の綿花から始まる倉敷物語」というタイトルで、糸編の世界という倉敷の文化を表している。市では、現在の倉敷市内のを中心と考えられていると思うが、糸編の世界ということであると、井原市や福山市神辺町と密接な関係がある。かつての三備地区の集合体として繊維が発展してきている。そのあたりを全く触れずに終わるわけにはいかないと感じている。それは日本遺産に認定された倉敷市が中心にやっっていかなければならないことである。なんとか取り込みながら、連携していければと思う。

## 会長

課題として考えていかなければならないと思う。福山市神辺町はライバル関係でもあり、ジーンズ発祥は神辺でも主張すると思う。学生服の起源にしても同様のことがいえる。それが連携しながら、良いライバル関係を築いていければ良い。

## 副会長

各地域が連携しながら、相互に発展してきているので、倉敷市というエリアだけで完結しないように配慮して欲しい。

## 会長

今回のとりまとめの中で、繊維に関しては、学問的な研究が十分に進んでいないということを感じた。学生服の発祥は、児島の中でもいくつかの説があり、証明されていない。倉敷の帆布にしても、その起源を究明できていない。郷内地区が産地であったが、操業記録を調べてみると、大正時代には郷内地区では、帆布にあまり力を入れていないことが分かる。倉敷市文化財保護委員の先生が会社を回って、古文書をもとに、いつの時期にどのような機械が何台あったかなどを調べられているが、帆布の起源を探るためには、さらに古い記録が必要になる。そのような記録はここ数十年の間で相当失われてきているという難しい問題もある。

## 副会長

私が子どもの頃には、まだ児島地域では綿糸づくりが盛んで、各家庭に近いレベルで織機が動いていた。しかし、現在は皆無に近くなっている。帆布も現在のように1社だけでなく、多くの工場があった。それがついこの間までの状況であったが、それが消えかかっている。

## 会長

先日の日本遺産のシンポジウムで真鍋氏にお越しいただいたが、帆布の研究のためには、前提となる綿糸の研究が大切であると言われていた。これからそのあたりの研究を益々進めていかなければならないと思う。

## 副会長

結局そこに辿り着くわけであり、それは井原地区も同様である。ブルーデニムと言うが、デニムの染色では、児島地区よりも井原地区である。その連携ができて、ジーンズが生まれてくるわけである。そのような広域連携のもとに産地が形成されてきたので、そのあたりを織り込みながら進

めていかなければならないと思う。

#### 会長

研究の立場からいうと、そのような高度な織りになるには、西陣で最初に開発された幅の広い高機がどうしても必要になる。産業史を紐解くと、機がどのようなルートを回って、どこに伝わったかを研究している人がいて、最後のところに児島と明記されている。かつてはそのような研究をされている人もいた。そういった意味でも、推測ではなく、しっかりとした学術的な研究、客観的な資料が必要であると思う。

#### 委員

そのような意味でも体制づくりが大切であると感じている。研究センターの設置や資料の収集、そして学芸員や研究員などの市役所の中での専門家の養成などを進めるための組織づくりが大切である。計画は 10 年間かけながら進めていくことになるので、その中で博物館や研究センターに携わる専門家を市の中で育てていくことを期待したい。自然史博物館のように、倉敷市が中心的な役割を果たしながら、発信源となって、岡山県を代表するものになっていければ良いと思う。

#### 会長

以前、糸や織のサンプル、実物をできるだけ残しておいて欲しいということ言われていたが、そのことを痛感した。

#### 副会長

私が 20 歳になる前後頃に、初めて児島でジーンズがつくられたが、既に国産ジーンズの第 1 号はなくなっている。もう残っていないと聞いている。当時は、そのようなことを考えていなかったためであるが、50~60 年経つと遺物として価値が出てくる。そのあたりのことも考えながら調査をしていかなければならない。

太い糸で厚い布をミシンにかけて製品にするという作業は普通ではできない仕事である。最初のジーンズをつくられた児島の方は、ミシンをアメリカから輸入して、初めて分厚いジーンズを縫っていったという歴史がある。相当な努力と資金、そして熱意をもって完成させたわけである。今となっては、それが遺産という段階になっている。

計画案はこれで良いが、今後 10 年間の取り組みを進めるなかで、広がりを持たせながら、さらに次のステップへと展開していければ良い。

#### 会長

計画案をあまり書き換えることはできないが、他に意見はないか。

#### 委員

倉敷市には、埋蔵文化財センターをはじめ、倉敷考古館や倉敷民藝館などがあって、そのような場所に小さな子ども達が入っていくことはとても良いことであると思う。先ほど、教育長が中学生に続かないと言われたが、私は高校生にも続いていないと感じている。さらに、繊維の産業史などを研究する大学は倉敷にはあるのか。

#### 事務局

市立短大に繊維について研究されている若い先生がおられる。来年、その先生に協力してもらいながら、産業史の研究ができないかと考えているところである。

#### 委員

私も多くの小学生を案内することがあるが、小学 3・4 年生に「江戸時代」と言っても、分かる子は分かるが、分からない子がほとんどである。もう少し日本の歴史について、小さな頃から学んで

いくことが大切だということを、ガイドをしていて痛切に感じた。倉敷考古館に小学3・4年生が行かれて説明を受けているのを聞いているが、なかなか価値が分からないと思う。接することは大切であるが、やはり中学や高校などの価値が分かる年代で行くことの方が、意味があるのではないかと思う。

#### 委員

繰り返しが大切であり、小学生から中学、高校、そして大学になっても通うなかで、徐々に意識が高まっていくのだと思う。

#### 委員

やはり中学や高校が抜けているのは良くないと思う。受験があるので難しいのかもしれないが、毎年4月に倉敷青陵高校の1年生 200~300人くらいをオリエンテーションでガイドする。中には地元ではない人もいるが、目を輝かせて聞いている。将来的には外に出て、他の地域の大学に行かれる人が多いので、地元を愛して欲しいということを説明するが、結構歴史に興味を持たれる。小学生だけでなく、中学生や高校生に対しても、倉敷考古館や倉敷民藝館をもっとPRしていけば良いと思う。大学も同様であるが、大学との連携という点では、今日お配りいただいている冊子は中学生が英訳されたということで、とても良い取り組みであると思うが、同じように日本遺産の色々な施設の紹介の英語版も、市内の大学の学生が訳したり、英語だけでなく、中国語や韓国語なども学生が訳していったりしてもらえれば良いと感じた。他の都市との連携だけでなく、市内の学校、大学との連携ができれば、来る人の見る目も変わって来るのではないかと思う。

#### 会長

教育長からクラブ活動の話があったが、児島地域の小学校や中学校の郷土研究クラブでは、繊維がメインテーマになっている。それがどのように発展していくかである。かつては岡山大学でも経済地理学の研究室があって、繊維業を研究テーマにしていたが、その後どのように発展していったかはわからない。私の同級生に修士論文で児島の繊維業を研究した人がおり、先日電話をして話をした際、文書がなくなったらおしまいであるということを言われた。

経済的な視点だけでなく、紐や糸、織などの物については、芦田委員が専門であるかと思うがどうか。

#### 委員

インバウンドは近年言われるようになってきたが、倉敷市ではその仕掛けは5~6年前からやっており、私もゼミの学生と一緒にホームページづくりのお手伝いをした。倉敷市と神戸市と琴平町と鳴門市の4つの都市を巡る観光ホームページで、今でも残っているので、またご覧いただければと思う。

この計画の情報発信の部分がとても重要であると感じた。先日、外国人観光客と一緒に下津井を歩いた。それはアニメーション映画の舞台を巡るというテーマだった。最近の観光は偽物の観光が一つのテーマになっており、本来のあるべき姿ではない形で見せる観光という捉え方である。私としては、それがアニメーションとオーバーラップして、興味深いイベントであった。実際に外国人観光客が下津井をどう捉えているのか興味があって話を伺ったところ「下津井は楽しい」と言われた。日本に長く住んでいる私たちにとって、下津井は「楽しい」という場所ではない。特に刺激のかというところでもない。しかし、彼らにとっては、刺激的だということである。もしかしたら、それは偽物の観光というところに重なるのかもしれない。しかし、それは価値観の問題であり、受け取る人にとって変わり得るものであり、それは情報を発信する人によって変わるものである。従

って情報発信という部分が重要であると感じた。一方的な見方だけの情報発信だけでは意味がなくなっている。最近の全国的な観光シンポジウムでは、市の観光ホームページを外国語でつくるのであれば、ネイティブの人の発信方法でつくるべきであるということがよく言われる。一般的にこれが良いという発信の方法ではなく、それぞれ価値の違う人が倉敷にやってくることを考えると、一つの見方だけの情報発信では足りない。是非考えていただきたいと思う。

**会長**

先日の日本遺産シンポジウムでは、SNSの発信力なども話題にあがっており、想像もつかない速さで情報発信がされる時代になっている。

他にご意見はないか。特にないようであれば、計画案を教育委員会に答申しても良いか。

(異議なし)

**会長**

完璧を期することは難しいが、意見は出尽くして、自信がもてる「倉敷市歴史文化保存活用計画」が出来上がったと自負している。この計画案で答申させていただく。

**事務局**

ご審議いただき感謝する。事務局で答申書を用意しているので、早速ではあるが、会長に押印いただき、教育長にご提出いただきたい。

**答 申 (一略一)**

(3) その他

**会長**

次第「その他」として、今後の予定について、事務局から説明をお願いしたい。

**事務局**

(今後の予定説明 一略一)

**会長**

今後の予定以外で、事務局からの連絡事項はないか。

**事務局**

ない。

**会長**

今回の審議会をもって、平成27年度に始まった倉敷市歴史文化基本構想等審議会も最後となる。委員の皆さまのご協力のもと、歴史文化基本構想と歴史文化保存活用計画の答申を無事に行うことができた。審議会は今日が最後になるため、3年間を振り返っての感想などを順番にお願いしたい。

**委員**

今回は、倉敷市内各地の文化財を地域の文化という位置づけから、倉敷市の財産としてアピールするために、各地に現存する文化財の情報を整理し、一過性の観光地ではなく、ストーリー性をもった観光地へと発展させるべく、見直しが行われたものと思う。また、歴史・文化財を伝承する人物の育成として、子ども達の教育・教材に文化財を活用し、正しい知識と理解を浸透させる必要性も強く感じた。何らかのストーリー性をもった歴史観光ルートを創造することによって、地域性を高めていけるものをご教授いただき感謝する。一般公募として参加させていただいた私は、既存の観光地に新たな付加価値を生み出すためには、改めてゼロベースから倉敷市の歴史・文化財についての知識を深める必要があり、倉敷市民全体が、地元文化への意識の底上げを図る重要性を痛感し

た。その知識こそが観光ニーズとリンクさせる鍵となり、各地の歴史・文化財にもストーリー性をもたせることで線となり、やがては大きな面となっていく可能性を秘めていると思う。この倉敷市歴史文化基本構想等審議会によって、倉敷の未来の希望を確信したところである。多くを学ばせていただいた文化財保護の方々や先生方に深く感謝を申し上げて、私の御礼の言葉とさせていただきます。

## 委員

知識が少なく役に立たずに申し訳なく感じている。この審議会の委員として得た知識と、倉敷市が日本遺産に認定されたことを、私の周りの方々にPRしていきたいと思う。県内外の方々や海外から来られる方々が、何度も足を運びたいと思えるような倉敷になればと思う。

## 委員

個人的な思い出は、私はマスコミという立場で委員にさせていただいたが、日本遺産に認定された時のくす玉を割る紐を引っ張ったことである。通常は取材する側であるが、今回は引っ張る側にいたというのが印象深い出来事であった。委員を務める中で、改めて倉敷市の歴史を再認識することができた。また、日本遺産の認定ということで、倉敷美観地区の番組を、過去に取材したものも含めて、改めて紹介することができたことがとても印象深く感じている。これからもまちの歴史や文化を小さな子どもから大人まで、知ってもらえるような番組づくりに励んでいきたいと思う。

## 委員

当初は私がこのような構想・計画をつくる場に出てきて良いのかとも思っていたが、出来上がったものをこれから広げていくのが、倉敷観光コンベンションの役割であると感じている。先般、修学旅行の関係でエージェントを誘致した。色々なところを連れて行く場合に、日本遺産に認定された31の文化財があるが、これを基本に、ここに行けばこのようなものがあって、それを少し発展させたらここにも行けるというようなことを考えながら、先日も歩いたところである。また、各市の市議会議員が行政視察に来られる。日本遺産のパンフレットを出して、このような取り組みをして日本遺産に認定されたということを説明している。私はそのようなことをしていくことが役割であると感じている。今後も、色々なエージェントに着地をPRし、それで商品を造成してもらって、倉敷に来てもらう、ということ、また、地元の人あまり知らないのも、地元の人巻き込んだ観光ツアーも計画していければと考えている。3年程前には、源平合戦の関係で市内を歩くツアーを企画実施した。現在は日本遺産へのアクセスがしっかりとしていないため、市と一緒にアクセス性の向上に取り組んでいき、日本遺産をメインにしたツアーを企画していきたいと考えている。皆さまにもご協力をよろしくお願ひしたい。

## 委員

関係者の皆さまには大変お世話になり感謝する。先ほど、偽物の観光という話をしたが、その対義語として、真正の観光という言葉が使われている。今回の計画は、真正そのものであると捉えている。また、将来的には、インフラ整備などのさまざまな問題があると思うが、全国的にもインフラの整備が進むことによって、おそらく倉敷市は全国のどこかの、同じような町並みをもった町と比べられることになると思う。そのためにも、今回の計画は、他の同じような町との差別化が図れるという点でも意味があるものだと感じている。先ほど下津井の話をしたが、下津井で出会った方は、所謂 YouTuber と言われる方で、全世界で100万人以上の視聴者を持っている。つい2日前にその方がアップされた倉敷市のYouTubeの映像は、2日間で既に5万人ほどが視聴されている。このような計画としてまとめられたこととは別のレベルで、SNSを使った情報の拡散が無限に広がっているという状況である。そのような意味でも、この計画の重要性が益々顕著になってくるかと

思っている。今後、このような産業資源や観光資源をこれまでと違う形で、いかに社会に出していくかを考えていくことが、私の仕事であると認識しているので、そのような視点から協力していきたいと思う。

## 委員

児島地区では、産業だけの発信では限界があり、歴史文化を活かしながら進めていかなければならないということで、平成 24 年に古事記編纂 1300 年の年に「むかし児島は、島だった！」というパンフレットをつくって動き出したところである。この審議会に参加させていただき、改めて倉敷市の財産の豊富さに驚かされた。児島地区では、平成 24 年と今年、パンフレットを小学生、中学生、高校生、大学生などに配布させていただいた。小学校や中学校の歴史の勉強は、基本的には古い方から入っていく。一番古いところでいうと、縄文式土器などが地元の色々な場所から出土している。そして、古事記の中でこの地域が出ているということ、それを知ると歴史そのものが楽しくなってくる。そういったこともあるので、倉敷市全体で古事記も含めながら取り組んでいくことが大切だと感じている。

雑談になるが、昨年、「児島うどん」というマップをつくった。古くから本州と四国を行き来する中で、「嫁をもらうなら讃岐からもらえ」という言葉があるくらいである。讃岐の方では、「児島にだけは嫁をやるな」とも言われているようである。讃岐の女性が児島で開花させたのが児島うどんである。児島では、そのマップが非常に重宝されている。また別の話では、瀬戸大橋が 20 世紀遺産の 20 選に選ばれた。それを記念して、何かしら活性化のための取り組みができないかということで、普通自動車の通行料金を 3 か月間 2000 円にしようかという提案もしている。

物語とは言えないかもしれないが、そのようなちょっとしたことを手掛かりにしながら物語をつくって、どうにか地域の活性化に向けて取り組んでいきたいと思うようになったことが、大きな成果だったのではないかと考えている。

## 委員

考古学は遺跡を守るという大前提がある。守るといっても色々な守り方があるが、現状を残すことを基本としているため、皆さんには耳の痛い話もさせていただいたところである。私の恩師は月の輪運動で知られる近藤義郎先生で、学生時代から地域の中で育まれていくということ教え込まれた。楯築遺跡の発掘の時も、新聞を作成して、朝には地域の方々に届けて、地域の方々と一体となって遺跡を発掘するという活動をしてきた。それを原点にして、現在があるため、そのような話をさせていただいたところである。

自分の中では、そのような大学生の時のきっかけがあって、それを持続する運動として続けてきた。今回、日本遺産の認定という大きなイベントがあったが、そのような活動が一過性のもので終わらずに、脈々と下の方では流れ続けている、その上を別の形で観光資源として流れていくような関係をつくっていければ良いと考えている。計画案自体は非常に良いものができたと思っている。計画に基づく取り組みを粛々と続けていただきたい。あとは、実施に向けた具体的な組織づくりが大切である。それは、事務局の前列に座られておられる 4 名の方が、体を張っていただかなければならない。計画的に進めていただきたい。私を含め、ここにおられる委員の皆さまは、今度は、それを支えていく立場になっていく。私が地域の中でリーダーシップをとれるかはわからないが、何かがあれば役に立てるよう努力するので、私自身を活用していただければと思う。

今回の審議会では良い経験をさせていただき、自分の中でも再度文化財保護について考え直す機会になったので感謝する。

## 委員

私は美観地区でボランティアガイドを行っており、今年6月で15年になる。この委員に選ばれて、有形・無形の文化財をどのように活用するかということで、色々と皆さんのお話を聞いたり、色々な先生方、委員の皆さまとお知り合いになれたのが私の財産だと思っている。尾崎先生や小西先生の講演を聞きに行かせてもらったのが、私のガイドとしての引き出しのひとつにできたのは、この委員に選んでいただいたお陰であると感謝している。また、倉敷市の一つの節目となる市制50周年や、中塚委員も言われていたように、日本遺産のくす玉を割るというのは、一生のうちにあるかどうかということであり、貴重な経験をさせていただいたことは、私の人生の宝ものになった。意見も聞けたし、勉強もできし、地元の茶屋町のこともアピールもできたということで、感謝の一言で終わらせていただきたいと思います。

## 副会長

副会長という身に余る役を仰せつかったが、十分に役に立てなかったのではと反省しているところである。この3年間、改めて倉敷市のもつ奥行きを感じ、考え直させられることも多くあった。今後、この計画を土台にして10年間、倉敷市が広く色々なことに取り組んでいかれる。広報や連携、また、さらに掘り下げた調査などに取り組んでいかれると思う。期待している。

この3年の間に、私の身の回りでいうと、中心市街地活性化協議会が大きく動き始めた。日本遺産の認定が、市民や関係者の中に強いインパクトを与えたのだと思う。

まず、倉敷考古館が今まで20~30年間眠っていたが、表に出てきた。これまで人の目に触れることはなかった重要な文化財も数点出てきて展示し直されている。それと同時に須恵器も展示されている。須恵器は焼き物の原点の姿を現在に伝えるものであるが、数多くの須恵器が倉敷考古館に展示されている。それを原点として、須恵器から繋がる焼き締め歴史、そして古備前、現在の備前焼の展覧会も6月から改めて行うこととなっている。同じことが倉敷民藝館でもあり、私は民藝館のファンの会の会長を務めているので、是非ご加入いただき、知っていただければと思う。さらにもう一つ、重要文化財の大原家住宅の一般開放の準備が整い、4月1日からオープンする。これが、倉敷地域における新しい大きな動きの一つである。

私はまちづくりに取り掛かって10数年になるが、大きなヒントを与えてくれたのは、私たちの言葉でいうと「風」の人であった。「土と風の会」を組織しているが、「土」はこの地で生活している人たち、そして、「風」は転勤族ともいべき人である。実は、「風」の方が、新しい目でもって倉敷を見てくれる。我々は、生まれた時から周辺に当たり前のようにあるものの良さに気づかない。しかし、「風」の人から、倉敷にはこんな良いものがあるではないか、こんな良い感覚があるではないかということを見せていただくことができ、そこからまちづくりが大きく動いてきたといういきさつがある。現在も「風」の人に色々な意見をいただきながら続けている。これから10年間取り組んでいかれる倉敷市教育委員会の皆さまにも、「風」の人を取り込んでいただきながら、他の地域の人の意見をしっかりと聞いていただきたいと思います。

## 会長

平成28年2月10日に14名の委員で構成されたこの審議会であるが、私の力不足を委員の皆さままで補っていただきながら、なんとかこの日を迎えることができたことに感謝する。産官学民それぞれの方々に集まっていた。丹下委員は、具体的な周遊ルートをどのように設定するのかと、前々から言われており、私としてははっとする思いをしたところでもある。また、事務局の方々も企画力で審議会を陰で支え、引っ張っていただき感謝する。

私も昔から、文化財を保護しても、誰も行かないし、誰も知らないのはどうかという悩みをもっていた。別の会議で、隣に座っていた偉い先生が、歴史文化基本構想は化け物だなということを言われていた。保存と活用という思想でもって、歴史文化の世界が動いていることを言われたのだと思う。SNSの話もあったが、倉敷を訪れた若者が、良い写真を撮ってアップしたら、もの凄い評判を生む時代になったということである。一方で、澤田委員が言われたように、文化財の保存と活用についての倫理は、依然として大きな課題である。私も大学の時に、後輩を連れて発掘現場に行った際に、礼儀がなくなっていたために、後で大変なお叱りを受けたことがある。小さな頃から、文化財に親しむ機会をもっと、倫理観やマナーを育てていければと思う。

私としては、この審議会に参加して、色々な人とのつながりができたことをとても嬉しく思っている。この場にはおられないが、各地域で活動をされている団体の代表者で構成していたワーキンググループの協力も大分賜ったと感じている。計画自体が優れていることは大切であるが、各地域で市民の活動がされていること自体がとても評価できることだと思う。実際に中世山城を見学するという講座を企画した際には、ワーキンググループで知り合いになった児島郷内地区の方の協力をいただきながら、事前調査をしてルートを検討したり、道づくりをしたりして実現することができた。

今後は、歴史文化基本構想と保存活用計画をいかに活用して、実施していくかが重要になってくる。事務局の皆さまにはよろしくお願ひしたい。

#### (4) 閉会

##### 事務局

本日は、ご審議並びにご承認いただき感謝する。閉会にあたり、加藤教育次長からご挨拶申し上げます。

##### 教育次長

委員の皆さまには本日はお忙しい中、ご出席いただき感謝する。今年度の歴史文化保存活用計画の策定に向けた検討は、今年度最初の審議会から約8か月間、回数では3階という短い期間、少ない回数で審議をお願いし、色々ご無理をお掛けしたが、委員の皆さまには、熱心にご審議いただき、貴重なご意見を賜り感謝する。本日、無事答申をいただくことができ、心から感謝申し上げます。今年度末をもって、3年間にわたりお願いしていた歴史文化基本構想等審議会の委員としての任期は終了となるが、今後、保存活用計画に基づいた取り組みを進めるにあたり、各委員の皆さまには、色々ご相談をさせていただく機会もあろうかと思う。その際にはよろしくお願ひしたい。また、今回の歴史文化保存活用計画のみならず、本市の文化財保護行政全般にわたり、今後とも引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、簡単ではあるが閉会の挨拶とさせていただきます。

##### 事務局

以上で第7回倉敷市歴史文化基本構想等審議会を閉会する。